

2021年度 ノーマライゼーション学校支援事業
第15回 フォーラム報告書

共に学ぶ教育への展望

共に生きる社会を求めて

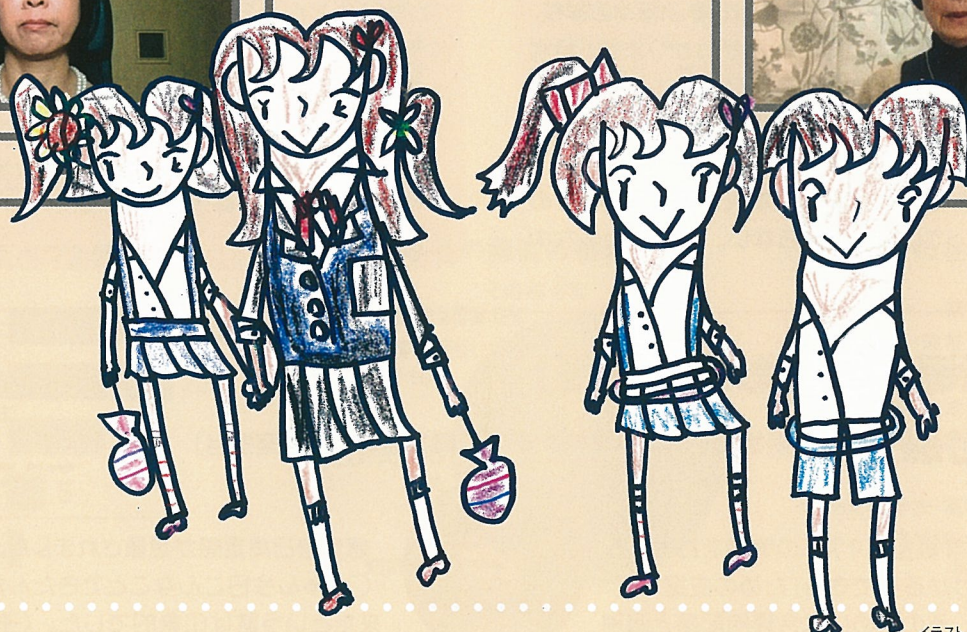
○○○



○○○



○○○



イラスト：山本江美子

●ご挨拶

ノーマライゼーション学校支援事業は、千葉県教育委員会・千葉県と、NPO法人ちばMDエコネットとの協働事業です。発達に凸凹のある子や障害のある子が学校生活や地域生活で困ったことがあるとき、ちばMDエコネットの学校サポーター（相談員）が相談を受け、いっしょに解決に取り組んでいます。学校サポーターは、障害のある子を育ててきた当事者家族や、障害のある子に関わってきた教職・福祉職等の経験のある人です。学校と保護者と、それぞれの思いや立場を理解しつつ、解決にあたっています。こうした個別の相談の解決が、この事業の大きな柱です。もう一つの柱は、研修やフォーラムです。障害への理解を深めることを目的に、広く県民に開かれた学びの場を提供しています。しかしながら、研修やフォーラムは、新型コロナウイルス感染拡大のために2020年度から会場での開催が困難な状況が続いています。今年度は、初めてオンラインでフォーラムを開催しましたので、皆さまにご報告します。

NPO法人 ちばMDエコネット

<http://mdeconet.jp/>

この事業は、千葉県教育委員会・千葉県とNPO法人ちばMDエコネットが協働でおこなっています

第15回フォーラム 共に学ぶ教育への展望 ——共に生きる社会を求めて

講演1～3：web配信期間：2022年1月17日～2月6日（参加無料）

主催：NPO法人ちばMDエコネット

後援：千葉県教育委員会

※このフォーラムは、千葉県人権啓発事業補助金の交付を受けて実施しました。

● 講演1

「特別支援教育からインクルーシブ教育へ」

講師：松浦俊弥さん [淑徳大学総合福祉学部 教育福祉学科教授]



● 内容

松浦先生のご専門は特別支援教育と児童福祉。知的障害の特別支援学校の教頭などを務められた後、大学教授に転身されました。千葉県で初めての現在の放課後等デイサービスを開設された方でもありません。教職をめざす全学生に必須科目となった特別支援教育についてのお話と、豊富なご経験からインクルーシブ教育についてのお考えも伺える機会となりました。



「その子の学力、可能性にあった教育を受けられるようにし、地域みんなで支えていく。それが理想」と先生。国が推奨しながらなぜ現場ではインクルーシブ教育が進まないのでしょうか。お話から、障害をもつ子どもが学ぶ種々の学校、学級がそれぞれ課題を抱えていることがわかります。特別支援学級の場合、専門性をもつ教員が不足していますが、その背景には教員の絶対数の不足などの問題があり、特別支援学校の過密化を招く原因にもなっているそうです。

このような状況を踏まえ、先生は「本人に合わせて種々の学校が選択肢になっていかねばならない。現場が大変な中

では、入学してからその先の見通しをもって保護者が学校と協働する姿勢が必要」と話されました。

講演では、南魚沼市立総合支援学校を紹介する動画と大阪市立大空小学校の映画「みんなの学校」予告編も流されました。わが子、他の子、そして地域と学校がつながって、子どもの健やかな成長を育む姿がありました。他人ごととせず障害や特別支援教育を正しく知ろうとすること、そこが原点であり、その子に合った教育を実現させていく重要性をあらためて認識させてくれた講演でした。

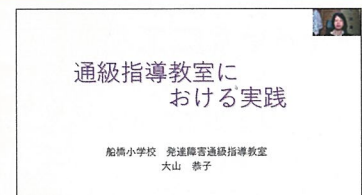
参加者から寄せられた感想

- ・私の住んでいる所は、まだまだインクルーシブ教育への認識が低いように思えます。地域の中で分け隔てのない教育が受けられ、生活できたらと思います。
- ・インクルーシブ教育が進むことと並行して、教職員の質や数の確保が難しく、地域に合わせた行政独自の取り組みや、親や地域の教員への理解と協力が必要だと分かりました。

● 講演2

「通級指導教室における実践」

講師：大山恭子さん [船橋市立船橋小学校教諭 発達障害通級指導教室担当]



● 内容

大山先生は通級学級担当17年の実績を持ち、すべての子どもに「わかる」「できる」ための支援を実践してきた方です。そのためには合理的配慮と個別支援そして担任、保護者、学校全体、時には医療機関との連携が大切であると指摘されました。合理的配慮とは困難なものではなく、声のかけ方の工夫ひとつで効果的なものであると事例から具体的に示されました。自閉症スペクトラムの子どもに、頭を下げて通ると話したら這い這いをしてしまった失敗談、叱られる失敗体験ではなく、褒められる成功体験を通じた成長の大切さ。ADHDの子どもの指導に、特別席はバツの席ではなく褒められる席にしていく。気持ちには寄り添うが（不適切な）行動には寄り添わない！ 守れそうな約束を決めて小さな事でもできたら褒めていく。これら一つひとつを長年の実践から詳しく語ってくれました。



そのお話の中に、子どもの困り事にとことん付き合い解決していこうとする先生の姿勢がみえ、子どもたちの安心

感や自己肯定感が想像されました。子どもが「先生、〇ちゃん今日こんなことできたんだよー」と報告に来たという話は印象的でした。〈子どもの行動には理由がある。この理由を見極めそれへの適切な手立てをしていくことで自己理解を深め、障害ではなく自分とうまくつきあえる個性へと繋げていく〉。こうした話で終わった先生の講演を300人近くの方に視聴していただけたことに大きな期待を感じています。

参加者から寄せられた感想

- ・とても実践的でためになりました。なかなか現役の先生のお話を聞く機会が少ないので、現場でのご尽力に頭が下がるとともに、家庭でも実践できそうなお話が聞けてすごく有意義でした。
- ・「うまくいかない」は子どものせいではないという言葉聞いて、アプローチ方法を考える時に、大人の働きかけの重要性や影響力を考えようと改めて思いました。

● 講演3

「ノーマライゼーション学校支援事業 事業報告」

報告: 山田晴子 [NPO法人ちばMDエコネット 理事長(学校サポーター)]

● 内容

事業報告では、県とNPOとが協定書を交わしておこなっていることとお話しました。学校サポーターの活動の図や、個別相談を受けるカフェひなたぼっこの写真などを、ゆっくり紹介しました。



して支援し、高校に合格したE君のことをお話し



個別相談は、データをもとにご説明しました(下に一部を掲載)。相談件数が2018年度は233件、2019年度は170件、2020年度は73件と減少しています。コロナ禍で学校が休校したことや、相談自体を控える傾向があったためと考えられます。また、小学校、中学校の特別支援学級での課題が多く寄せられ、特に学習面での支援が十分でないという声が聞かれました。中学校特別支援学級では、卒業後の進路について、特別支援学校だけでなく、多様な選択肢を示してほしいという声がありました。10年以上にわたって相談を受け続けている方も多く、その時々課題解決に向けて一緒に動いているのが本事業の特徴です。

事例4のF君の場合は、学習の充実を求める保護者とF君の激しい行動を直そうとする学校とが対立しました。学校サポーターが入って、冷静に話ができるようになりました。事例5では、発達障害の高校生と担任の先生との関わりをお話しました。そして事例6では、中学校時代から相談を受け、専門学校に合格して将来の夢を実現しようとしているHさんのことをお話しました。6人とも発達障害、またその疑いのあるお子さんです。これまでの事例を振り返り、困難な状況でも当事者同士が協力すればよい方向に向かうことを確信し、そのために第三者の役割が必要であると実感しました。

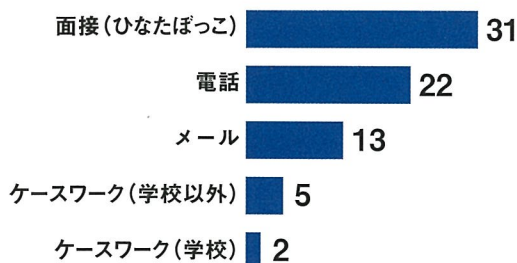
事例紹介では、事例1で小学校通常学級で不登校になり「居場所がない」と悩んでいたA君のことをお話しました。校長先生が「A君により環境を用意することが我々大人の役割」と言ってくれて、登校できるようになりました。事例2は、学級崩壊状態だった特別支援学級を、保護者と学校と教育行政が協力して立て直した例です。事例3では児童相談所、福祉サービス事業所、学校サポーターの三者が役割分担

参加者から寄せられた感想

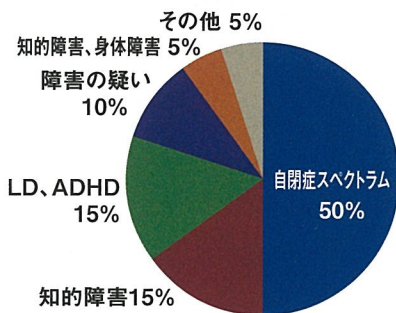
- ・小学校の特別支援コーディネーターをしています。事例が参考になり、どのように進めていけばよいのかも聞きたくまりました。繋がれば強いと感じました。連携できればうれしいです。
- ・地域で共に学びたい生活したい。まさに私達家族が求めている事です。今回講演を聞くことができよかったです。

個別相談データ集計結果 ※データ集計期間は、2020年4月1日～2021年3月31日です。

■ 相談件数 (延べ 73 件)



■ 当事者の障害の種類



■ 当事者の在籍状況 (20人)



● 質問会

2022年2月6日(日) 13:30～15:00 Zoom配信

● 内容

これまでのフォーラムでは、講演後に質疑応答の時間を設けて、会場で先生との熱心なやり取りがありました。今回は、講演動画配信後に質問をメールで受け付け、講師の方にオンラインでお答えいただく「質問会」を開催しました。初めての試みでどれくらい集まるか心配していましたが、参加者は10名、講師と関係者をあわせて全体で18名の参加でした。

講演1の松浦俊弥さんには、講演の中で紹介されていた「個別指導計画」が特別支援学級で義務化されたことがどこまで現場で浸透しているかについて、また、受刑者と障害の

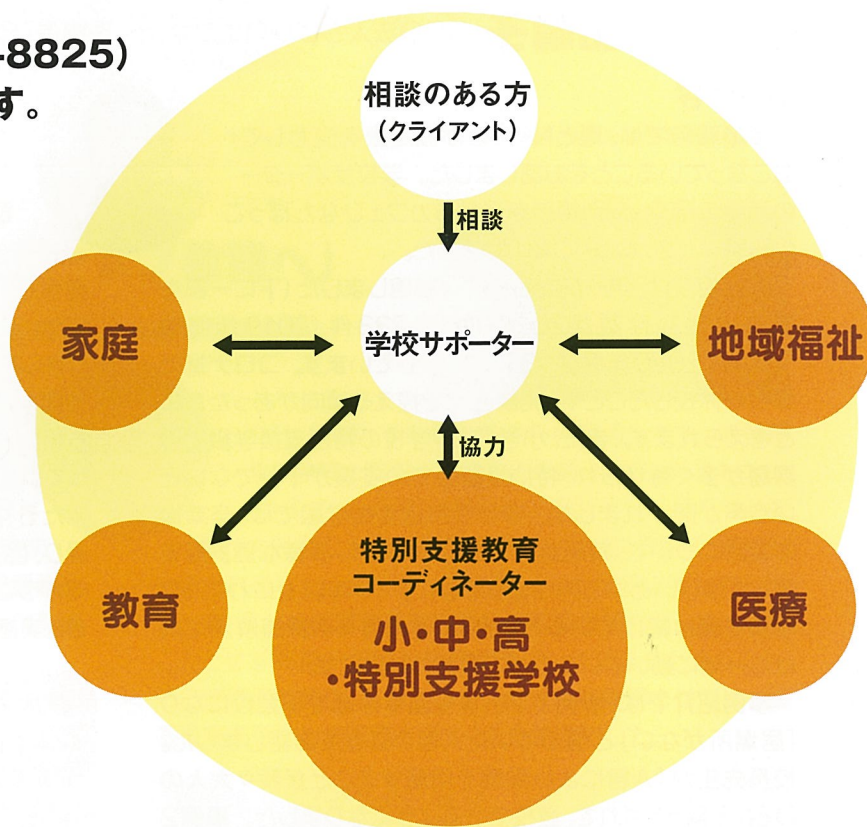
関係についての質問、障害者雇用率のような制度を教育現場に取り入れられないか、といった内容の質問がありました。講演2の大山恭子さんには、いわゆる「グレーゾーン」と呼ばれるお子さんに対してどのように接したらよいかという質問、通級指導教室でのグループワークの具体的な内容、障害のある子の進路選択についてどうしたらよいかという問いかけがありました。

松浦さんと大山さんは、質問と回答をまとめたスライドをもとに丁寧に答えてくださいました。お二人の回答によって、参加者に新たな発見が生まれ、理解が深まりました。

ノーマライゼーション学校支援事業 相談の流れ

発達に凸凹のある子や障害のある子が学校生活の中で困った時、その子のよりよい学校生活を実現するために、ちばMDエコネットの“**学校サポーター**”が千葉県との協働事業として以下のことをおこなっています。

- ① **まずは、お電話下さい。(047-426-8825)**
相談日時調整、予約を受けつけます。
- ② **学校サポーターがお話を聞き、一緒に考え、課題解決のお手伝いをします。**
- ③ **必要に応じて学校に出向くなど、関係機関と連絡調整します。**



〈個別相談〉

本人、保護者、学校関係者など広く皆さんからの相談をお受けしています。

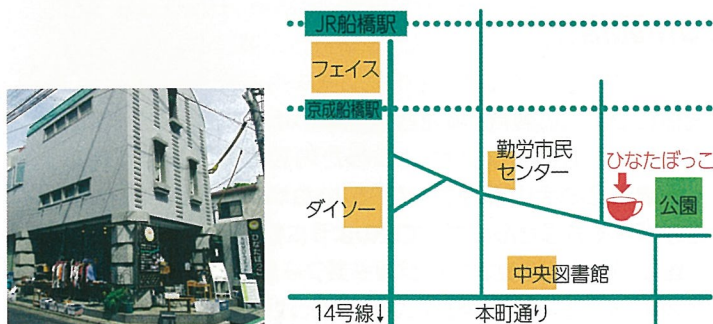
相談・予約受付：火～土曜日 10:00～16:00
(日・月・第1土曜日 定休)

電話：047-426-8825

E-mail：soudan@mdeconet.jp

相談場所：コミュニティカフェひなたぼっこ

※相談は無料です。多くの方のご相談を受け、事業を継続するために、皆さまからのご協力とご支援をお願いします。



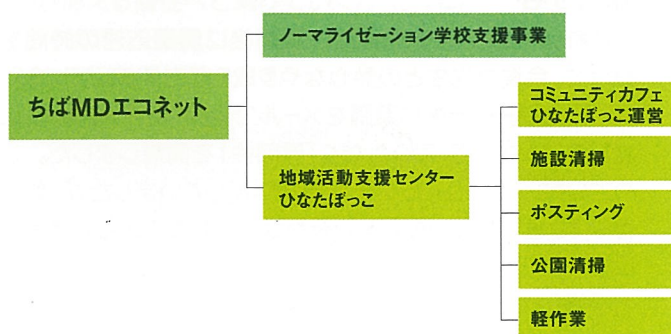
〈研修・フォーラム〉

障害のある子の受け止め方、特別支援教育の理解と実践について、現場経験が豊富な講師をお招きして、研修とフォーラムを開催しています。

日程や内容については、ちばMDエコネットのHPをご覧ください。

NPO法人 ちばMDエコネット

私たちは、「障害のある人もない人も共に生きるノーマライゼーション社会」の実現をめざして活動を始め、1999年にNPO法人になりました。2017年から地域活動支援センターひなたぼっことして、コミュニティカフェひなたぼっここの運営を中心に、高齢者施設の清掃、ポスティング、公園清掃、企業と連携した軽作業などさまざまな仕事をしています。また、誰もが働きやすい環境づくりに向けて、「ユニバーサル就労」の取り組みを進めています。



NPO法人 ちばMDエコネット

住所：〒273-0005 千葉県船橋市本町4-31-23 URL <http://mdeconet.jp/>